

日本人の1人当たり労働時間は、法律で週40時間、1日8時間と決められている。年間52週とすると年労働時間は2080時間となる。

となる。一般のサラリーマンよりはやや多い。

もちろん、経営規模が大きく、念入りの栽培管理を行っている人は、もっと多くの時間がかか

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

37

本県のリンゴ農家はどうかというと、2012年の農林水産統計で、1経営体当たり3943時間とあり、農業専従者1

人が、雇用労力や地域の共同作業を使う場合もある。一概に労働時間の多寡は説明できない。

46人から試算すると、リンゴの作業は、10人当たり2700時間（千平方メートル）当たり、2

省力化栽培

マメコバチ授粉で活躍



リンゴの授粉を担うマメコバチ

51時間かかっている。コメ作りより相当多い

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

が、施設野菜や花き栽培などは、もっと労力がかかっている。

リンゴ作業で最も手間がかかるのが袋かけと除袋で、全体の3割

ちまで授粉作業に借り出された時期もあった。

この作業を大幅に省力化してくれたのが「マメコバチ」だ。昭和40年代から普及が進んだ。

本県のリンゴなどが、マメコバチ等の花粉を運ぶ昆虫から受ける経済的価値は592億円と大変大きな金額になるとの試算が今年2月、農業環境技術研究所から発表された。青森リンゴは国内で最も恩恵を受けている作物とのことだ。

自然のお助けマンに大いに感謝したい。

（県りんご輸出協会事務局 局長 深澤守）